

「自助・共助チェックシート」
～発災直後72時間乗り切るために～

(氏名)

自助：家族が平常時から取り組むこと	備考
1 療養者の身体状況の確認	
<input type="checkbox"/> 療養者の平常時の状態やケアの状況を把握している。	
<input type="checkbox"/> 医療が必要か判断できる。	
<input type="checkbox"/> 支援者連絡先一覧の作成、支援者に必要な情報を発信できる。	
2 医療機器の状況確認	
<input type="checkbox"/> 正しく作動しているか評価し、作動しない場合は原因に沿った対処ができる。	
<input type="checkbox"/> 医療機器を正しくセットできる。	
<input type="checkbox"/> 医療機器メーカーの担当者との連絡方法を確認している。	
3 家屋の安全性の確認	
<input type="checkbox"/> 家具やベッドの配置を考慮し、安全安心スペースの確保をしておく。	
<input type="checkbox"/> 家具類の固定、療養者の頭上への配慮をしておく。	
<input type="checkbox"/> 家屋の耐震チェックをしておく。	
4 ライフラインの確認（特に電気）	
<input type="checkbox"/> 停電時の対応を確認しておく。	
<input type="checkbox"/> 医療機器の内、外バッテリーの耐容時間を把握。代替バッテリーを常備。定位置を確認する。	
<input type="checkbox"/> 発電機の使い方、作動状況を定期的に確認する。	
<input type="checkbox"/> 東京電力へ登録をしておく。（停電及び復旧目途の情報が得られる。）	
5 在宅で待機するための事前準備	
<input type="checkbox"/> 安否確認の連絡方法、実施機関、集約する機関を確認しておく。	
<input type="checkbox"/> 必要物品（食糧、水、薬、衛生材料等）の備蓄をしておく。	
<input type="checkbox"/> 医療ケアを介護者が判断・実施できるようにしておく。	
<input type="checkbox"/> 自宅周辺のハザード情報、災害情報入手の手段を確保しておく。	
<input type="checkbox"/> 地域支援者の確保（災害時要援護者登録・地域に情報発信ができる）	
6 避難するための事前準備	
<input type="checkbox"/> 主治医と災害時の対応について相談しておく。	
<input type="checkbox"/> 療養者のフェイスシートを常備しておく。（定期的に更新）	
<input type="checkbox"/> 入院調整機関、避難場所、入院機関について相談しておく。	
<input type="checkbox"/> 移送手段、移送支援者の確認しておく。	
共助：地域住民、コミュニティによる助け合い（自主防災活動）	備考
1 隣近所の住民と助け合える関係づくり	
<input type="checkbox"/> 日頃からの近所付き合い、顔見知りになる。	
<input type="checkbox"/> 災害時に協力し合える関係づくり。	
<input type="checkbox"/> 関係づくりの場をつくる。（個別プラン立案時等）	
2 共助の強化	
<input type="checkbox"/> 地域の支援者に療養者の状態について理解を得る。	
<input type="checkbox"/> 地域の支援者が安否確認・必要な支援内容の確認ができる。	
<input type="checkbox"/> 災害発生時の役割分担をしておく。（誰が何をするか）	

「災害直後の72時間を乗り切るための支援」 —各機関ができること・必要と考えられること—

* 皆様から出された御意見を、機関別に記載しました。支援者の役割を確認する際に御覧ください。

	今、できる支援 (今後、必要と考えられること)
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ○退院前に医療ケアの指導をする。 ○退院時の情報提供書で、訪問看護ステーションと指導内容の連携をして、家族が医療ケアの習得ができるようにする。 ○フェイスシートや救急医療キットを利用し、受け入れ準備を整える。 ○発災時の受け入れに関する取り決め。 ○退院時に災害に関する指導をする。 ○サマリー記載
ケアマネジャー	<ul style="list-style-type: none"> ○療養者のフェイスシートの提供。 ○災害時の対応についてケアプランに記載する。 ○自宅周辺のハザード情報をケアプランに入れる。 ○担当者会議の時に災害時支援者（協力者）の確認をする。 ○専門職ボランティアを活用して、自宅から避難所へ移動する可能性もあるので、医療担当者を中心に関係機関同士の連携体制づくりをする。 ○自家発電の方法を確認する。（情報の取得をしておく） ○地域支援者に療養者や家族が自ら支援が必要なることを発信していく必要性を伝えていく。 ○一枚に情報を要約して車椅子やベッドに貼る。 ○在宅チームで医療関係者を中心として介護職への指示や注意点を確認しプランに位置づける。
訪問看護ステーション	<ul style="list-style-type: none"> ○療養者のフェイスシートの作成。 ○支援機関（協力機関）の連絡先一覧の作成。 ○医療機器のケアの指導（アンビュウの使い方：日頃からケアの練習をしていないと、いざという時に使えない） ○介助等の指導 ○停電時の対応について介護者に確認し手動に切り替える方法などを指導（例：人工呼吸器・吸引器等の対応、電動ベッドの戻し方等） ○近隣の協力確認
行政機関 (市・町 保健福祉事務所)	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時要援護者登録の紹介・必要性の説明 ○難病患者にも救急医療キットの活用の周知をする。 ○医療機関の受け入れ調整（MCA無線で確認） ○日常生活用具の支給（吸引器・意思伝達装置等） ○家屋の安全性の確認 ○停電時の対応確認 ○要援護者登録している療養者と地域支援者との顔つなぎ
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○救急医療キットの内容の確認（災害時も利用できる内容かどうか）